連載寄稿　宮前ガバナンス3月号

緊急消防援助隊活動拠点を犬蔵に整備！

～防災センターの設置を要求　予算審査特別委員会にて審査～

川崎市議会議員　石田やすひろ

川崎市議会第1回定例会が24日、閉会しました。平成26年度予算、1兆335９億円余の予算を審査し、決定しました。予算審査特別委員会では、緊急消防援助隊活動拠点整備費の６億４７００万円余について質問しました。平成15年６月に消防組織法の改正により、緊急消防援助隊が法制化を受け、本市でも東日本大規模災害に対応した拠点整備が求められていました。

整備計画は、平成27年12月の完成を目指し、宮前区にある犬蔵訓練センターの施設を改修するとしています。災害時の機能としては、他の自治体消防部隊等の受援に備えるため「応援部隊への指揮機能」、「備蓄物資供給機能」などを持ち、迅速な対応に備えます。整備内容としては、消防局指令センターや、隊員３００人程度が宿営できる体育室、緊急車両用の給油施設、ヘリコプターの臨時離着陸場を整備します。

委員会では、平時の施設活用方策として、「防災センター」の新たな設置を提案しました。政令市の防災センターの設置情況を調査したところ、設置している市は12市、設置していないのは、本市以外に7市でした。提案に対し消防局長は自主防災組織や小・中学校生を対象とした体験学習に活用する他、地震体験、煙体験、初期消火体験等を検討していくと回答しました。

防災機能の強化に向けて、緊急消防援助隊の受け入れ可能な集結拠点としての整備に期待しています。また提案したような平時でも有効活用できる防災センターを設置すれば、市民への防災意識への普及啓発、学校教育の場として有効に活用できます。消防施設を身近に学ぶことで、市民に開かれた消防となるのです。

川崎市立犬蔵中学校卒業、明治大学大学院（公共政策修士）修了、国会議員の秘書を経て1999年28歳初当選。現在4期目。子育て支援策の強化や区役所機能の強化を推進する。その他、政策を議会で提案し多数実現をしている。議会発言後は、必ず駅頭や広報紙を作成しその内容について積極的に市政報告を実施。

その他ブログ等は

市議会議員 石田やすひろ　検索

今月の1枚

予算審査特別委員会、大震災の教訓を活かせる防災センターの設置を提案しました（3月13日）